

# アサヒカメラ

11

PHOTOGRAPHY JOURNAL  
ASAHI CAMERA  
NOVEMBER 1993

デジタル・フイルム入門  
シグマ SA-300  
露出計 2  
・診断室  
・特集  
ハードウェア・ガイドからCD-ROM評まで

鷺尾倫夫

小林伸一郎

佐藤明

藤井秀樹

井上よういち

望月昭伸

秋山亮二

若目田幸平

宮嶋康彦

塗師岡弘次





ニコン F4 ・ 24~50<sup>mm</sup>, F3,3~4.5 ・ 28~80<sup>mm</sup>, 3.5~4.5 ・ ペルビア

韓民族 (人間文化財)

金 碩重 ● 韓国・37歳・写真家

【撮影メモ】人間文化財とは、韓国の国家重要無形文化財の人々である。彼らは透徹した匠人精神で、長い歴史にわたってつむがれてきた韓民族の文化遺産をただ一筋に継承している。大韓民国全域に居住する無形文化財を8×10のカメラによる3年間の作業は、私の目で韓民族の精神を鑑賞することでもあった。

【評】何人かの無形文化財の方々の写真である。8×10で撮影した関係だろうか、やや形にとられすぎだという印象を受ける。内面から湧き出てくるものが見えないのだ。撮られるほうも、大型カメラで撮られるのでつい構えてしまい、本当の姿でなくなってしまうことが多い。

作者は撮影するときに、かなり形を作ったのではなからうか。69頁の女性は目のキヤッチライトが強く、内面がかなり出ている感じだ。70頁の男性二人は、内気であまり表面に出たがらないタイプに思える。

ここに掲載した以外の作品はかなり型にはまっていた。しかし、大型カメラで撮ったものとしては、なかなかうまくできている。

四万十川

藤田 健 ● 坂出市・59歳・写真家

【撮影メモ】四万十川は「最後の清流」と

いうキヤッチフレーズで、観光地としては第一級に昇格した。こうなれば当然のことか、川沿いの道も3車線に広がり、ドライブインや土産物店が建ち、自動販売機も至る所に設置されている。そんな川を、そのままに撮ればよいと思いつつも、長年見慣れた四万十川には、そうしたものがどうも似つかわしくなく感じられて、カメラを向ける気になれない。したがって年ごとに撮る場所が限られてくる。

【評】上の写真は、水かさがかなり増した川を、人が橋を渡っているところだ。人物の位置を、真ん中から手前右にした方がよかったかもしれない。一方、川の水が少ないときは、下の写真のように子ども遊び場となっている。特に手前の河原によって、のどかで、夏らしい感じがする。記念写真の枠を超えて、子どもの楽しそうな感じが伝わってくる。荒れた川と橋と、静かな子ども遊び場が対照的でとてもいい。この2枚で四万十川の雰囲気がよくわかる。写真の構図の取り方、絵づくりもうまい。

たたずむ瞬間

山上高人 ● 倉敷市・44歳・医師

【撮影メモ】他にすることもない休みの日に、何となくカメラを持って出かけ、路傍に自分の風景を探します。社会性とか記録性などは一切関係なく、自分の心象と風景が一致したほんの一瞬をカット

します。よく「一体何を撮っているのですか」といった質問をされます。説明に困って笑ってごまかしたり、たまに調子のいい時には「私はプロですから」と煙にまいたりして面白がっています。この何の変哲もない停止した一瞬を集積させて、偶然の意図が見えて来る時、こんなに楽しいことはありません。

【評】作者は、特にねらいを決めて撮影に行くのではなく、自由気ままに歩いていけるうちに目についたものを撮影したとのことだが、特に環境汚染について関心があるようだ。おもしろい作品がたくさんあった。確かに、面白いものにはまたま出くわしたという感じで、一歩踏み込んだものは少ない。が、時間に急かされてやったものではないので、かえって変化があつて面白い。捨ててはならない場所、さまざまなものがうち捨ててある。作品の多くは自然と廃棄物の組み合わせで、なかなか面白かった。色もきれいだし、天気の状態もよい。

◆  
《今月の佳作》▼佐々木義仁(札幌市)▼蔵田四朗(木更津市)▼中村祐一郎(大田区)▼大屋文正(秦野市)▼小坂祐貴子(川崎市)▼下木康平(吹田市)▼奥田倉之(豊島区)▼Takashii Norio(ドイツ)▼IIカラー・▼IIモノ・応募総数20人  
《編集部から》カラー・▼IIモノは、平らなスライドケースに入れて応募してください。応募要項は32頁にあります。

●1958年創立●

●総合写専がめざすもの●

「1年間ひとつの作業を継続し、そこから写真の基本を学ぶ。」

(3年・渡辺兼人ゼミ)

●募集課程●

写真芸術第1学科140名  
写真芸術第2学科100名

学校法人・専修学校

校長・土田ヒロミ

東京総合写真専門学校

★「学校要覧・出願書類」は、電話、ハガキで  
ご請求ください。(無料)

横浜市港北区箕輪町2-2-32 〒223  
☎045(563)3077 FAX045(563)2050 ☎0120-063077